

平成30年度 学校経営計画に対する最終報告書

石川県立宝達高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 生徒の進路志望100%実現を目指すために、3年間を見通した学力向上とキャリア教育の推進を実践する。 ・学習規律の遵守と家庭学習の確立 ・基礎学力の定着と生徒の学ぶ意欲を喚起 ・学習指導方法の改善と生徒の思考力・判断力・表現力の育成	① 学習規律の遵守に努め、主体的に授業に取り組む態度の定着を図る。	各教科 教務課	学習規律を守っている生徒の割合が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	教職員調査(12月) A(72.2)+B(22.2)= 94.4% 達成度：C 生徒調査(12月) A(76.4)+B(21.1)= 97.5% 達成度：B	生徒調査では7月より学習規律を守っているという意識が10.2%上がっており、昨年度同時期と比較しても3.9%上がった。若干気になる生徒もおり、周りも気を緩めるとすぐに崩れてしまう恐れがあるので、全員が学習規律を守るように、今後とも各授業で意識を持って取り組んでいきたい。
	② 生徒の実態に合わせて個別に目標設定を行い、計画的に学習に取り組ませる。また、授業での学習内容が次の授業につながるような取り組みやすい課題を与え、学習内容の定着を図る。	各教科 教務課 各学年	家庭学習時間が60分以上生徒の割合が A：70% 以上 B：60% 以上 C：50% 以上 D：50% 未満	生徒調査(12月) 120分以上 4.1% 60~120分 27.6% 60分以上合計 31.7% 達成度：D	ほとんどの生徒が授業以外でも学習に取り組んでいるが、30分~60分の生徒が多く、量的には足りない状態である。担任と教科担当が連携をとりながら、個々に応じた課題を課し、机に向かう時間を増やす工夫が必要である。家庭での学習が進路実現に大きくつながることを理解させ、粘り強く指導していかなければならない。
	③ シラバスに学び直しの項目を入れ、授業中に活用を図る。また、学び直しについても適切に評価し、学習意欲を喚起することで基礎学力の定着を図る。	各教科 教務課	学び直しのための教材を作成し、活用した教員の割合が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	教職員調査(12月) A(72.2)+B(27.8)= 100.0% 達成度：A	各コース・習熟度別クラスに応じて学び直しを意識した指導が行われている。学び直しによって自己肯定感を高めながら、より高度な内容を学ぶ喜びを感じることができるよう、さらなる工夫改善をしていかなければならない。
	④ 授業に書画カメラやiPadなどのICT機器を活用して映像や視覚的な効果を取り入れ、生徒の学ぶ意欲を喚起する。	各教科 教務課	ICTの活用により、学習意欲が高まったと感じている生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	生徒調査(12月) A(34.1)+B(37.4)= 71.5% 達成度：D	昨年度同時期は69.8%であり、0.7%上がったものの、80%には達しなかった。今年度後半、ルーターと生徒用iPadの使用が可能となり、ICTの新たな活用が見えてきたようである。プロジェクトの稼働率も高まっており、生徒の学習意欲をより高めるために、研修会を行い教員間で情報を共有しながら工夫を続けていきたい。
	⑤ 各種研修や地域交流事業における授業参観等を通して、学習指導方法の改善に努める。	各教科 教務課	授業がわかりやすいと感じる生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	生徒調査(12月) A(69.4)+B(19.1)= 88.5% 達成度：B	全教員が地元の小中学校や他の高校の授業を参観し、さまざまな気付きを通して指導方法の改善に努めてきた。生徒も概ねわかりやすいと感じているようであるが、7月と比較するとその割合は2.6%下がり、達成度はAからBに下がった。学習内容が難しくなったためであると推測され、今後も持続的に改善に努める必要がある。

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 生徒の進路志望100%実現を目指すために、3年間を見通した学力向上とキャリア教育の推進を実践する。 ・学習規律の遵守と家庭学習の確立 ・基礎学力の定着と生徒の学ぶ意欲を喚起 ・学習指導方法の改善と生徒の思考力・判断力・表現力の育成	⑥ 主体的・対話的・深い学びの充実を図り、思考力・判断力・表現力の育成を図る	各教科 教務課	主体的・対話的・深い学びの授業を取り入れている教員の割合が A：95% 以上 B：85% 以上 C：75% 以上 D：75% 未満	教職員調査(12月) A(44.4)+B(50.0)= 94.4% 達成度：B	7月には75.0%で達成度はCであったが、Bに上がっており、教員が意識的に主体的・対話的・深い学びの授業に取り組んだことがわかる。思考力・判断力・表現力の育成には時間がかかると思われるので、次年度も引き続きこの取り組みを継続していかなければならない。
	⑦ 上級学校理解・職業理解などを通じて、生徒の進路意識を向上させ、早期に進路目標を設定することができるよう指導する。目標とする進路実現のために学習に主体的に取り組むよう、各学年のキャリア教育を段階的・系統的に関連付けて実施する。	進路指導 課 各学年	各学年のキャリア学習が進路選択に役立っているとする生徒の割合が A：95% 以上 B：85% 以上 C：75% 以上 D：75% 未満	生徒調査(12月) A(62.6)+B(30.1)= 92.7% 達成度：B	前年度同時期は91.8%であり、ここ数年漸次増加している。本年度のキャリア学習も、引き続き次の3点に留意して実施した。①生徒の資質の伸張に配慮した3年計画。②進路学習と進路行事とのバランス。③精選された適切な質(内容)と量(日数・時間等)。学習意欲と進路意識は進路実現を支える両輪なので、保護者との連絡も密にして、継続的に効果的指導を考える。生徒の全体像にかんがみ、上級生の活動を見学させる等、早め早めの活動・意識付けに取り組んでゆく。
	⑧ ホーム担任が「面談シート」を活用して、生徒の卒業後の進路に対する思いや情報が把握できるよう、個人面談を適時適切に行い、生徒の進路意識の向上と進路実現を目指す。	進路指導 課 各学年	個人面談が進路意識の深まりやキャリア学習への取組に効果があつたとする生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	生徒調査(12月) A(49.2)+B(40.2)= 89.4% 達成度：B	前年度同時期は87.1%であり、効果ありという回答が2ポイント増加し、達成度はAに肉迫した。これは、各担任が面談において、生徒が進路選択に関する問題意識を持つよう継続的に指導した成果である。全体への投げかけとともに、生徒の希望状況に配慮し、今後も継続して指導していく。
	⑨ 生徒ひとりひとりの早期の目標設定を行い、切磋琢磨し相乗効果をあげるための学習グループの形成を目指す。進路ガイダンス、模擬試験、進学補習、作文・面接指導など、系統的・段階的な取り組みを実施する。	進路指導 課 各学年	生徒の進路実現率が A：100% B：95%以上 C：90%以上 D：90%未満	95.9 % 達成度：B	現在の3年生の進路決定人数について 進学：22名、就職：23名、その他：2名（1月17日現在） 次年度に向けて、志望達成のために、①目標の早期設定。②切磋琢磨し相乗効果をあげるための学習グループの形成。③「書き方指導（履歴書・願書・作文）」と「応接指導（面接・挨拶等）」について、教員間で一層の情報共有を図り、生徒一人一人の指導を積み上げる。
学校関係者評価委員会の評価	自分の進路目標を早めに定めることが大切で有り、キャリア教育が重要である。 家庭学習については、高校生なので自主性に任せているところがあるが、家庭において勉強する習慣が大切である。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	キャリア教育については3年計画で実施しており、進路学習と進路行事のバランスを考慮するとともに、今後も保護者との連携を密にするなど継続に取り組んでいきたい。 家庭学習については、教科担当教諭と担任の連携を図りながら、課題等を工夫して家庭学習時間を確保していきたい。				

重点目標		具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2	<p>自主自律の精神を持った社会人としての資質・能力を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚 ・挨拶などのマナーやコミュニケーション能力の育成 	① 登下校指導を行い、教師が積極的に挨拶を交わし、全校挙げて生徒によるあいさつ運動の充実を図るとともに、身だしなみ(端正な制服の着こなしと髪型)を守ることによって、社会人の一員としての自覚を促す。	生徒指導課 各学年	生徒同士や職員、外部の来客や地域の方々に対し、自分から進んで挨拶ができ、服装・頭髪の身だしなみがきちんとしてると答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	生徒調査(12月) 挨拶 A(35.0)+B(44.7)= 79.7% 達成度 D 頭髪・服装 A(52.8)+B(38.2)= 91.0% 達成度 A	「自ら進んで挨拶ができる」生徒の割合は 79.7%で7月の調査よりも3ポイント減少。また、「服装・頭髪の身だしなみがきちんとしている」生徒の割合は 91.0%で7月よりも0.5%上昇した。身なりについては、いつでも就職試験や入学試験を受けられる状態を維持できるよう指導を行う。一方、挨拶については、毎朝の正門での登校指導を継続的に行い、挨拶の習慣づけに力を入れる。また、生徒会と連携して各クラス・各部活動ごとでのあいさつ運動をより効果のあるものにしていくため、生徒会と改善策を検討する。
		② 全教職員が協働して、遅刻ゼロ運動を進める。 ・各学年の1日の平均遅刻人数を毎月集計する。 ・遅刻の多い生徒には、個別面談を行い、生活の見直しや改善につなげる。	生徒指導課 各学年	1日の平均遅刻者数指標 1学年 1人以内 2学年 1人以内 3学年 1人以内 1日の平均遅刻者数の達成率が A：各学年とも目標を達成した B：2つの学年が達成した C：1つの学年が達成した D：全学年が達成できなかった	学年毎の1日当たりの遅刻者数(～1/17) 1学年 0.11人 2学年 0.56人 3学年 0.42人 達成度 A	7月に調査した時よりも全学年とも遅刻者数が減少している。各ホーム担任が日頃から家庭と電話連絡をし、他の教職員と生徒についての情報交換を密にしている。そのため目標を達成することができた。しかし、遅刻する生徒の中に寝坊や電車の乗り遅れで遅刻する生徒が3割近くいる。このような生徒が遅刻しない指導を来年度に行う。
学校関係者評価委員会の評価		来校者に対しては、生徒が自ら進んで挨拶をしているように感じられるが、職員に対しては身近に感じているので自らの挨拶が少ないのではないかとと思われる。 学校内だけではなく、校外でも挨拶をしてほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		今後も、生徒会役員や部活動の部員などによる「あいさつ運動」を継続的に実施し、生徒が校内校外を問わず自ら進んで挨拶が出来るように取り組んでいきたい。				

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 宝達高生としての愛校心や自己有用感を高めながら、人間性や社会性を磨く。 ・部活動や特別活動、地域貢献活動の充実と活性化	① 平常清掃の大切さを呼びかけ、積極的な参加を促す。また、環境整備委員等の働きかけによる美化コンクールを通じ、環境美化への自主性を高める。	厚生課	役割分担をし、協力して清掃活動に取り組んでいる生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	生徒調査(12月) A(61.0)+B(33.3)=94.3% 達成度 A	昨年同期より、2ポイント減少した。 環境整備委員と連携をより一層強め美化コンクールや大掃除などを通して校内の美化に対する意識の高揚に努めていきたい。
	② 基本的な生活習慣確立のために年間6回「生活自己チェックカード」を実施し、生徒一人ひとりの生活状況やいじめ等の悩みを把握し指導に活かす。	厚生課 生徒指導課	生活自己チェックカードの結果が個々の指導に活かされていると答えた教員の割合が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	教員調査(12月) A(70.0)+B(30.0)=100% 達成度 A	7月は、90.4%でCであったが、12月は到達度Aとなり、生活自己チェックの取り組みは、定着してきている。今後は、生徒の生活の改善に繋がる指導に力を入れていきたい。 「いじめ」の項目については、生徒指導と情報を共有し、生徒の指導において連携したい。
	③ 部活動の組織的運営を図り、積極的に部活動に加入し、年間を通して継続的に取り組むことができるよう指導する。	生徒会課 各学年	部活動に加入し年間を通して継続的に取り組んでいる生徒の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	生徒調査(12月) A(72.4)+B(18.7)=91.1% 達成度 A	昨年同期より、6.1ポイント増加した。 1年生で、退部や転部をした生徒がみられた。また、顧問に無断で欠席する生徒も一部みられ、顧問と担任が連携して指導していく必要があると思われる。
	④ 生徒会や部単位での活動を主として、地域への貢献活動やボランティア活動に積極的に取り組むことにより、生徒の成長を促す。	生徒会課 各学年	地域への貢献活動やボランティア活動に取り組んだと答えた生徒の割合が A：85% 以上 B：75% 以上 C：65% 以上 D：65% 未満	生徒調査(12月) A(44.6)+B(30.6)=75.2% 達成度 B	昨年同期より、6.1ポイント減少した。 昨年度はボランティアの実施日を生徒会課で設定していたため、顧問の出張や会議等で、引率できないことがあった。今年度は生徒会課で実施期間を設定し、その中で都合の良い日を各部活動がそれぞれ選ぶ形にした。また、活動内容も各部活動が自分達で考えるものとした。生徒アンケートの結果は減少したものの、昨年よりも積極的に取り組んだという意識付けはできたと思われる。今後も意識付けをさせていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	部活動については、運動部文化部共に積極的に実施してほしい。 地域のボランティア活動に積極的に参加してほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	今年度新しく卓球部を立ち上げるなど、生徒の要望に応じた部活動の運営を目指していきたい。 宝達マラソンや千里浜クリーンビーチ等のボランティア活動に参加しており、今年度からは生徒が自ら考えてボランティア活動に参加することを目指しており、積極的に手助けをしていきたい。				

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 近隣の小・中学校との連携を密にし、地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。 ・学校の教育活動を積極的に保護者や地域に発信	① HPの更新を通して、生徒、保護者および地域住民へ速やかに情報を発信するとともに、HPの閲覧を推進し、本校の良さを理解してもらう。	総務課 各学年	本校のホームページの閲覧回数が日平均で A：130回以上 B：110回以上 C：90回以上 D：90回未満	HP閲覧回数 (4月～12月) 日平均：約228回 達成度 A	本校のホームページについて宝達志水町内に配付する広報や保護者・生徒へのメールに記載し、HPの閲覧を勧めた。行事予定・大会結果・部活動など様々な情報を更新した結果、多くの生徒、保護者および地域住民に継続して閲覧していただいた。ただし、8月から9月にかけて閲覧回数が減少している。
学校関係者評価委員会の評価	学校のホームページをよく閲覧しているが、新しい行事ごとに写真や感想が更新されており、大変楽しみにしている。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	学校行事や校外で気づいた点があれば、なるべく早急にホームページを更新していきたい。				

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
5 職員は勤務時間を意識した効率的な働き方に努める。	① 限られた時間を意識した働き方を行う。	総務課	見通しを持ち計画的な業務ができた教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	A(63.2)+B(36.8)= 100% 達成度 A	1年を通して業務の適正化・役割分担を図り、全教員が計画的かつ効率的なタイムマネジメントをするようになった。
学校関係者評価委員会の評価	各職員が健康に気をつけて、計画的に業務を行ってほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	今後も、業務の役割分担や適正化を図り、効率的に業務が行えるようにしていきたい。				